

27 当透析センターにおける認知度調査の結果

健和会病院血液透析センター 久保田由子 三沢明子 久保数彰子 木下嘉代 熊谷悦子

I はじめに

認知症は歳をとるにつれ増加し、85歳以上では4人に1人に見られる多い病気といわれている。当透析センターでは95歳から65歳の患者様に認知症簡易検査を行い、実態を調査した。

【当院の年齢別患者割合】

65歳未満 37%、65歳から75歳未満 27%、75歳から85歳未満 23%、85歳以上 13%だった。全体の63%が65歳以上だった。(図1)

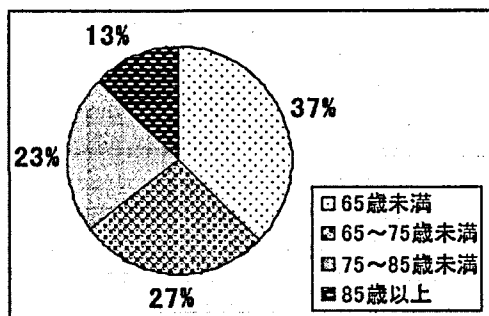


図-1: 当院の年齢別患者割合

II 対象及び方法

対象は95歳から65歳までの91名の患者様の内コミュニケーション不能の17名、すでに認知症と診断されて治療している2名を除く72名に対し検査の意義を説明した。同意の得られた38名に対して以下の検査を行なった。

当院使用のHDS-R・MMS問診表を使用し作業療法士に検査を依頼した。

HDS-R 改訂長谷川式簡易知能評価スケール

MMS Mini-Mental State

【HDS-RとMMSの簡単な説明】

HDS-Rは設問に見当識・記銘・計算能力・記憶・想起・常識から成り立っておりアルツハイマー型認知症の診断用に用いられている。30点満点で21点以上であれば正常、20点以下だと認知症の疑いが強い。

MMSは認知症の診断用に30点満点の11の質問からなり、見当識・記憶力・計算力・言語的能力・図形的能力などを評価する。24点以上で正常と判断、10点未満では高度な知能低下、20点未満では中等度の知能低下と評価する。アルツハイマー型認知症以外の認知症の不得意とする項目が含まれる。

【検査を勧めた95歳から65歳91名の内訳】

同意された患者様38名・コミュニケーション不能な患者様17名・拒否された患者様34名・すでに診断されている患者様2名だった。(図2)

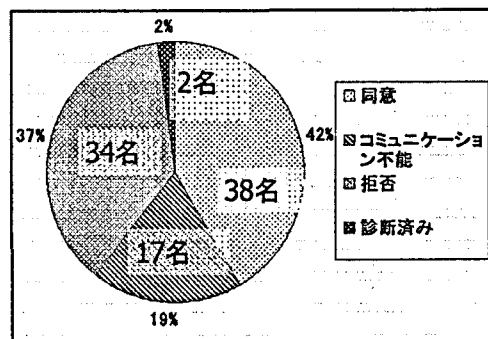


図-2: 検査を進めた95歳から65歳91名の内訳

III 結果

【HDS-RとMMSの結果】

HDS-RとMMSの結果は、HDS-R20点以下且つMMS23点以下は9名であった。HDS-Rが21点以上あるがMMS23点以下が4名・HDS-R21点以上且つMMS24点以上が27名であった。(図3)

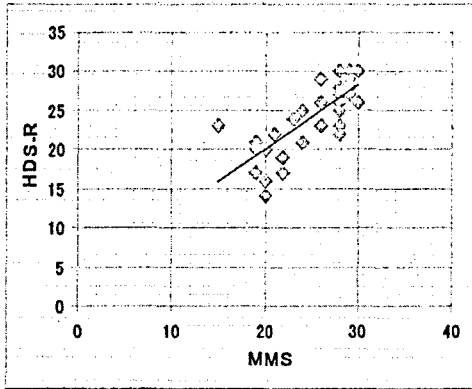


図3 HDS-RとMMSの結果

【年齢とHDS-Rの結果】

年齢とHDS-Rの結果を調べたが、年齢と検査数値の相関はなかった。(図4)

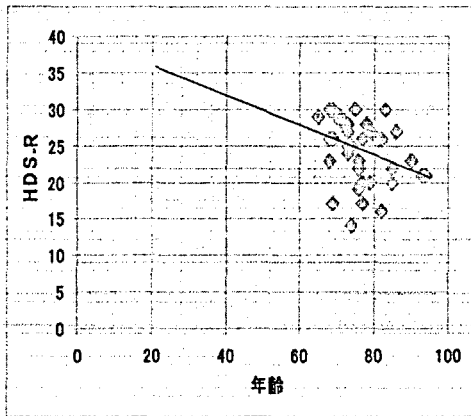


図4 年齢とHDS-R

【95歳～65歳 91名の認知能力の内訳】

95歳から65歳の認知能力の内訳は、コミュニケーション不能19%であった。認知症治療中2%であった。HDS-R・MMS共に基準値以下10%、MMSのみ基準値以下4%、HDS-R・MMS共に基準値以上27%だった。検査拒否38%だった。(図5)

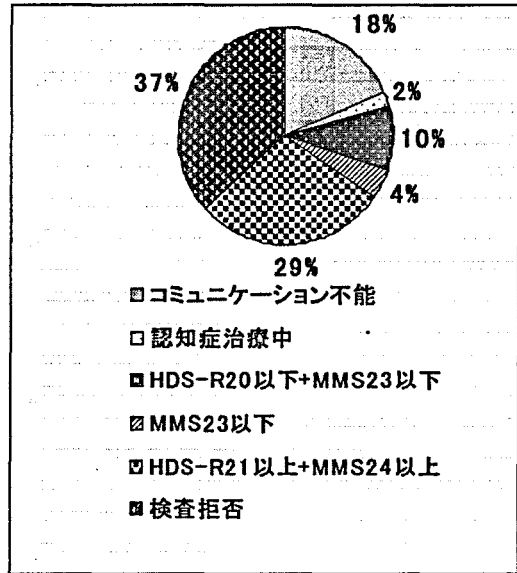


図5 95歳～65歳91名の認知能力の内訳

【調査のまとめ】

65歳以上では35%に認知力に問題があった。検査上問題がなかった患者様は27%だった。今回の検査で新たに10%の患者様が認知症疑いと診断された。38%の患者様に検査拒否があった。

認知力と年齢には相関がみられなかった。

IV 考察

38%の患者様に検査拒否があり、今後この群に対する評価法の検討が必要である。認知力と年齢には相関がみられないことから、年齢にとらわれず積極的に検査を勧め、精査・治療につなげることが望ましい。

早期に異変に気づき、心を安静に保つ環境づくり・サポート体制作りが必要である。

V 参考文献

知っておきたい認知症の基本 川端信也
P.3～P.6 P127～133 P196～201